



神社と四季「平和の祈り」(原爆の日前夜)

広島県神社庁報
ふたば

二葉

第148号

発行所 広島県神社庁
広島市東区二葉の里
☎ (082) 261-0563
FAX (082) 261-6628



ご挨拶

広島県神社総代連合会
会長 後 高雄

この度、広島県神社総代連合会会長の中丸元夫さんが退任されました。後任として私「後 高雄」が二年間会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年初頭から新型コロナウイルス感染症が急拡大し、「広島県神社関係者大会」が二年続いて中止となりました。準備を進めてこられた皆様関係者の皆様のご苦労に深く感謝申し上げます。

「広島県神社関係者大会」で、栄えるある表彰をお受けになられた皆様方には、心から御祝い申し上げ、永年に亘る御功績に対し敬意と感謝の意を表します。

畏くも、今上陛下におかれましては、このコロナ禍におきましても多忙な国事行為と共に祭儀を第一義としてお勤めになられ、常に国民の安寧を祈念されています大御心を押し皇室の長久と弥栄をご祈念申し上げる次第であります。

さて、全国神社の本宗と仰ぐ伊勢の神宮においては本年神宮大麻領布百五十年の佳節を迎えた。永きに亘り続いている神宮大麻領布にはコロナ禍が続いている中、全国はもとより県内の各神社におかれておりませんが、一進一退を繰り返しながら減少することが予想されます。これからも、皆様方のご理解とご協力をいただきながら、神職と総代が手を携え、一世帯でも多く奉斎家庭が増えるよう努力して参りたく存じます。

各神社においてはコロナ禍により神事を控えたり小規模にされたりする中、感染対策を講じながら祭典や祭りが少しづつ再開されて来ており喜ばしいことであります。コロナ終息には時間がかかりますが、各地域の神社を護持し、敬神崇祖の信仰を深め共に地域の氏子の皆様の絆を深めていきましょう。



神社本庁表彰式

式典は午後一時開始 感染症の状況により池田厚子総裁不在により総裁式辞を鷹司統理が代読の後、田中恆清総長から表彰審査の報告。次いで受章者全員の氏名が読み上げられ、各条項毎の代表者に鷹司統理並びに田中総長から表彰状と記念品が授与されました。

次に来賓の小松揮世久神宮大宮司、三村明夫全国総代会会長（代理）の祝辞と続き、受章者を代表して中山高嶺長老が謝辞を述べられました。

最後に岩下忠佳長老の発声により、聖寿万歳が声高らかに奉唱されて式典は滞りなく終了しました。

尚、広島県から左記九名の方々が受章され、当日神職四名、総代一名が出席されました。

表彰の栄に浴された方々に対しましてお祝い申し上げます。

比甲神深世豊賀安山安佐庄三府福沼因島瀬戸尾道御調原
婆婆田芸高県伯大芦品山隈西東奴石安羅原茂田西東佐芸竹原次
兒佐奥福石林行三穂佐藤村飯櫻八小追貝重巻田高
玉々山場原友善田々井田田井谷原林田白幡未
朝木哲快史幸公孝公盛栄和建義貴則将定雅宜
奉光文治之裕和明昭男良司弘誠弥覺識之夫彦俊晴純

支部長

事務局だより

前号の庁報(一四七号)P6の支部長と庁報通信員に記載漏
ありました。
茲に謹んでお詫び申し上げますと共に訂正致します。

比比甲神深世豊賀安山山安安佐庄三府福沼尾道御調三吳
婆婆田竹芸高縣山縣伯大品中芦限山限戶田原
西東奴石安羅原茂田西東佐芸竹原次山原
兒後田福德竹梶三波梶石牧宗瀬宮小尾神柳河郡桑横
玉藤中場永廣山善多野原橋原像戶永畠多原田野山原田
朝哲律快淡浩政孝邦武正昌利一卓直賀晴勇茂しん光光
光史子之路二孝昭彦彦敏史道樹宜樹悟氣規や龍彦則

序報通信員

広島県神社庁表彰

第六十六回 広島県神社関係者大会

広島県神社総代連合会表彰

三、総代の部(五名)	福	因島瀬戸田	福	廣島市
府 中 芦 品	山	山	山	市
次 次 熊 野 神 社 総 代	福 山 八 幡 宮 総 代	齋 島 神 社 票 宜	福 山 八 幡 宮 票 宜	通 保 姫 神 社 権 票 宜
曾 利 田 弘 之	鎌 倉 崎 建 信 夫	宮 荒 谷 本 宣 彦	日 下 雅 賢 正 紀	河 野 泰 賢 治
三	賀 世 賀 茂 茂 茂	谷 中 田 田 竹 藤	森 大 宣 千 紀	川 渡 部 正 子
、	佐 伯 大 竹 芸 芸	足 平 口 中 村 本 行	谷 尾 知 寻	野 泰 賢 治
、	佐 伯 大 竹 芸 芸	利 和 正 義 明 文	本 賢 治	誠 志
、	佐 伯 大 竹 芸 芸	法 和 正 義 明 文	千 紀	悦
、	伊 勢 神 社 責 任 役 員	則 治 明 文	正	
、	大 頭 神 社 責 任 役 員	之 義 明 文		
、	河 内 神 社 責 任 役 員			
、	神 田 神 社 責 任 役 員			
、	八 幡 神 社 責 任 役 員			
、	丹 生 神 社 責 任 役 員			
、	吉 備 津 神 社 総 代			
、	曾 利 田 弘 之			

二、総代の部（九名）

安佐伯大竹
神天満
田神社
社總代
辻角田
秀俊司

（一六四八）し、御本殿を建て直した。日本で三番目に大きい本殿であり、古の姿を守っている。福島正則より領地没収された神社は、室町よりの領主にかわり、氏子により約三百年前に再興された。広島県の江戸時代からの神社本殿が残っている数は日本一である。

本研修は充実した内容であり、今後の神明奉仕の原動力となりました。研鑽を重ね、感染症対策を講じ、健康で氏子様に護持された神社の祭りの厳修に励みます。

令和四年六月二十八日に教養研修会が、広島県神社庁にて行われた。コロナウイルス感染が落ち着いた時期でしたので、五十名程がオンラインで集まり実施された。感染拡大を防ぐために、マスク着用での受講となつた。また、蒸し暑い日だったので、上着とネクタイを外すことが許され、クールビズの格好での受講となつた。

まず初めに、広島県立総合技術研究所保健環境センター保健研究部の島津幸枝様に「マダニ対策・蚊媒介対策について」のお話を頂いた。これから夏に向けて、神社境内の草抜きや、庭の手入れ等があり、マダニや蚊の増える時期に感染対策を教えて頂き助かつた。感染対策としては、肌の露出部分を減らし、虫よけスプレーを使用するという、一般的な対策で十分であると知つた。そして、刺されないための対策と発生するので、空き缶や、竹の切り口、手水などに雨水が貯まらないようにすることが大切だと知つた。そして、刺されないための対策としては、肌の露出部分を減らし、虫よけスプレーを使用するという、一般的な対策で十分であると知つた。蚊やマダニのサンプルや、虫よけ対策の薬剤などの展示もしてもらい、とても分かりやすい講義となつた。

続いて、神道政治連盟事務局次長の平尾朝典様に「参議院議員選挙の取り組みと時局問題」についてお話を頂いた。皇位継承策の確保については、世論調査や、有識者会議の資料を基に大局から見える現状を教えてもらつた。そして、家族の在り方等に関する

■ 安佐支部 田中山神社

補宜 植木繁之



諸問題については、夫婦別姓や、同性婚、パートナーシップ、LGBTの問題を埼玉県議会での具体事例や、世論調査のデータを基に説明して下さった。この問題に関しては、理解が難しいが、知識や情報と共に共有しながら対策をしていく必要があると感じた。そして、参議院議員選挙への取り組みについて、比例区の現状を教えて頂いた。選挙に関しては有権者が高齢化しており、若者を取り込むための施策があるが、普及していない現状で今後の日本の政治を真剣に考えると、未来を作る若者の投票率向上がとても大切だと思った。

最後に、広島大学名誉教授の三浦正幸様より「広島県の歴史、県内のお城の成り立ちと背景・神社建築等」についてお話を頂いた。また福島正則による領国経営の為、寺社仏閣の勢力が抑えられ、縮小化された地域があつたと知つた。また、広島県内において、城建築と神社建築にて外陣付き本殿が多数あることと、そのデザインや機能性にも注目していくことを思つた。

今回は、暑い中でしたが、各先生方には分かりやすい説明に努めてもらい、受講した方からもたくさんの質問が出て、とても有意義な研修会となりました。先生方はもちろん、準備等をしていただいた皆様にも心より感謝いたします。ありがとうございました。

教養研修会報告

甲奴支部 八幡神社

宮司 田中律子

六月二十八日広島県神社庁にて教養研修会が開催された。コロナがやつと落ち着いてきたこともあり、五十名もの参加があつた。吉川綿と続いている。次の時代に伝えて行くことが神社・神職の責務である。お祭りが賑やかなことを神様は喜ばれ、子供たちの心に残つて行く。今年のお祭りは、コロナウイルス対策に細心の注意を払つて神事は当然、例年に戻して執り行つていただきたい。」という挨拶で始まつた。

第一講は、「マダニ対策・蚊媒介対策について」と題して広島県立総合技術センター・保健研究部・島津幸枝先生があつた。今まで情報が入つていて、感染症の専門家の先生の講義は、氏子の皆様に伝えようと思つた。マダニは何處にでも居り飛ばないので、植物や動物に触れた時に人の体にくつつく。成虫は二五ミリ（実際に見せて頂いたが黒く丸い）、皮膚を麻痺させて吸着した皮膚の下にいろいろな物質を注入して体液溜まりを作り、吸血を行う。痛くもかゆくも無く、時間経過と共に病原体が注入される。しかし、見つけたら速やかに取る。体をつぶさず、毛抜きやピンセットでそつと持ち上げて取る。口下片が残つたら皮膚科へ。感染すると重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を発症する。血液検査により判明。症状は発熱や消化器



症状（嘔気・嘔吐・腹痛・下痢）から始まり、リンパ節腫脹、神経症状を示すことも。防ぐためには、肌を出さない服装、虫除けスプレーを活用。ペットのマダニ対策も重要。蚊の感染症は、溜まり水に注意。蚊の病原体を維持・増幅する増幅動物（猪・鹿等）に注意。

第二講は、「参議院議員選挙の取り組みと時局問題」と題して神道政治連盟事務局次長の平尾朝典先生が講義をされた。時代の流れと守らなければならないことを考えさせられた講義であつた。

第三講は、「県内のお城と神社の成り立ちと背景・神社建築等」と題して広島大学名誉教授の三浦正幸先生が、広島県の人々の誇りとなる建築について講義された。まず、石垣について。嚴島神社千畳閣下の石垣は、広島県初の豊臣系の石垣（天正十五年・一五八七）、現存最古の天守の土台である。広島城天守台の石垣は、広島県初の台形の石を使い約二十メートルあるものを毛利輝元が造成（天正十九年・一五九一頃）した。我流にて日本一である。次にお城。広島城は豊臣秀吉の命により毛利輝元が日本初の五重五階の天守閣（天正二十年・一五九二頃完成）を築いた。実際に戦うことが出来る城である。最上階は真壁造であり、大阪城を正しく継承している。廻縁もあるが、擬宝珠のある神社本殿が格上である。原爆により倒壊するも戦後再建された。福山城は、関ヶ原の戦（一六〇〇）により、福島正則が安芸国と備後国の大守となり、三原城・神辺城・鞆城を移築拡張（一六〇一より）する。福島正則改易後、水野勝成は、外様大名の反乱を防ぐための城を築くよう幕府より命を受け、城の景観が日本一、費用対効果日本一の大きな福山城（元和八年・一六二二完成）を築いた。神社については、福島正則が太守となり検地を行い、神社・仏閣の領地を没収し捨て置く。嚴島神社は保護する。福山城主水野勝成は備後一宮吉備津神社を再建

シリーズ 神社の社紋について

庁報編集委員会

(No.148) 6

はじめに

令和二年七月から、庁報編集委員会で取り組んでまいりました、広島県内の各負担金神社の社紋の調査・分析を庁報において随時掲載する準備が整いました。

今後、なるべく分かり易く報告させて頂きたいと思っております。調査にあたりましては、各神社の宮司様方の絶大なるご協力を賜りまして、多数の情報提供をして頂きました。心より感謝申し上げます。有難うございました。

社紋について

「紋」には、物の表面に表された図形、所謂「紋様」という意味と、代々その家で定め伝えられる家のシルシや、組織及び団体などを識別し、特定する意匠又は図案、所謂「紋所」「家紋」「紋章」という二つの意味があります。今回、調査した「社紋」は、神社の「紋章」のことで「神紋」とも呼ばれています。

神社の紋章とは

『神道いろは』三二頁には、神社の紋章について次のように記載されています。

各家の家紋と同じように、それぞれの神社にも紋章が用いられており、これを神紋(しんもん)と称しています。

我が国における紋章の起源は、平安時代に公家社会において用いられた紋章に遡ることができます。初めは各自の好みの文様を、それぞれの衣装や調度に装飾的な意味で用いていま

したが、だんだんと父祖伝来の文様が慣用されるようになり、一族の文様として定着していきました。

その後、武家社会においては、戦地において敵と味方を瞬時に判別する必要から、旗指物などに一族の文様を描くようになりました。一族の團結の象徴でもあるこの文様は、目印としての実際的な意味合いが強くなり、次第に簡略化されて、現在のような家紋の形となつていったのです。

さて、神社における神紋についてですが、この成立に関して幾つかに分けることができます。

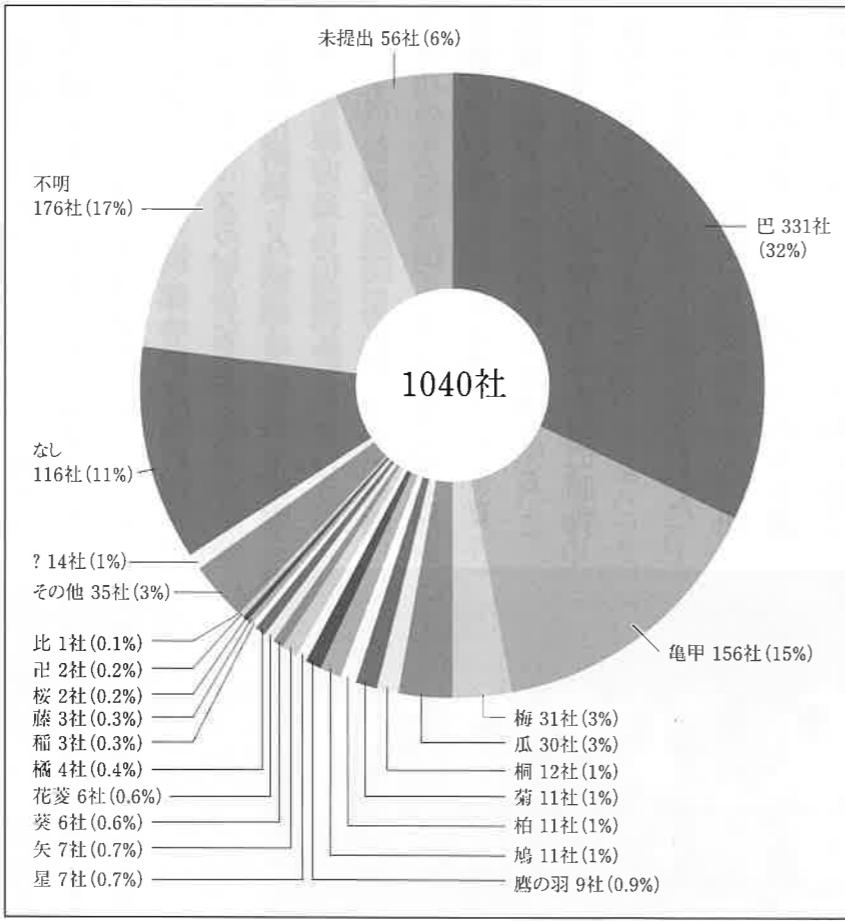
まず一つは、神社に縁深い神木などの植物、祭器などと表したもののが神紋として用いられる場合で、大神(おおみわ)神社の神杉などを例としてあげることができます。

二つ目は伝説や伝承などに基づくもので、菅原道真公を祀る天満宮の梅紋は、道真公が生前に梅の花をこよなく愛でたという伝承により、神紋として用いられたものといわれています。

三つ目は家紋から転用されたもので、これは歴史上の人物をお祀りする神社に見られるものです。徳川家康公をお祀りする東照宮では、徳川家の家紋である葵紋が、神紋となっています。



参考資料
広島県内神社の社紋割合(令和4年7月末現在)



広島県内の社紋の調査報告(その一)

広島県内には、千四十社(令和二年七月現在)の負担金神社があります。各神社より提出された報告をもとに県内の社紋の「数」の比較を行いました。

県内で最も多い社紋は、「巴」(ともえ)紋で、三百二十一社報告されています。これは県内負担金神社の三十二%で、日本の神社に最も多い社紋です。次に「亀甲」(きつこう)紋が百五十六社で十五%。「梅」紋が二十一社、「瓜」紋が三十社とそれぞれ三%。「桐」「菊」「柏」「鳩」の四紋では計四十五社で四%。一桁代の各神社の紋が十一紋あり、計五十社で五%。「その他」「?」と、今後詳しい調査の必要な紋が四十九社あり全体の五%。又、社紋の「なし」「不明」といった神社が二百九十一社あり全体の二十八%。これらの意味するところも重要なではないかと思われます。県内での社紋の分布状況も神社建築仕様の分布状況と比較して検討課題にあると思われます。

よつて、今回九十五%という高い回答率ですが、現在未提出の神社が五十六社あります。それらの神社の方々のご協力、宜しくよろしくお願い申し上げます。

次回は「巴」紋についての報告を予定しています。



広島市支部 「万灯みたま祭」

去る五月二十八日（土）、二十九日（日）の両日、広島市中区基町に鎮座する広島護國神社（藤本武則宮司）にて、万灯みたま祭が斎行された。万灯みたま祭は、県民や市民から奉納された約一〇〇〇〇灯の提灯を境内に掲げ、御祭神の御神徳の顕彰と感謝の誠を捧げる祭りである。

二十八日十八時より万灯みたま祭の祭典を斎行。十九時より神社境内にて、一般公募で選ばれた高校生から三十歳までの未婚女性による「縁むすびのみこ踊り」、本職巫女による「巫女舞」、安芸高田市吉田町多治比の高猿神楽団による「八岐大蛇」、その後「縁むすびのみこ総踊り」として手提灯踊りが奉納された。

二十九日には、十七時より安芸高田市美土里町の広森神楽団による「八岐大蛇」の奉納。十八時より万灯みたま祭祭典斎行。十九時より神楽共演大会と題して、広森神楽団による「鍾馗」、山県郡北広島町石井谷の東山神楽団による「滝夜叉姫」が奉納され、大きな賑わいを見せた。

(池田憲明 通信員)

支部だより

安芸高田支部 「吉田高校野球部必勝祈願」

今年の第一〇三回全国高等学校野球選手権広島大会を前に、恒例となっている吉田高等学校硬式野球部必勝祈願祭が、七月一日（金）戦国大名・毛利元就の居城だった郡山城の麓、毛利元就ゆかりの安芸高田市吉田町鎮座の清神社で執り行われた。

久保薰校長、増田浩汰監督、梶間凜主将ら二十四名が参列した。栗原明夫権禰宜の必勝祈願の祝詞に続き、監督、選手や学校関係者、後援会、同窓会役員らが玉串を奉奠し必勝を祈願した。神事後、清神社から必勝箸が、後援会から元就の「三矢の訓え」にちなんだ三本の矢と硬式ボールが勝利を祈念し選手に手渡された。

昨年夏以降、部員が減少し、向原高校と吳昭和高校との連合チームで活動していたが、この春女性マネージャーを含め新入部員八名が加わり単独チームとして大会に臨む。祈願祭で覇気を高め、また近年、県内外への遠征や対外試合数を重ねていることも相俟つて、いい結果が出ることが期待される。初戦は七月十六日で忠海高校と対戦する。

(波多野邦彦 通信員)



第二十三回の中国地区社頭講話研修会が五月十八日から十九日までの二日間、島根県神社庁を会場に開催されました。講師は島根県の石原道夫先生、錦田剛志先生で、受講者は中国五県から十三人が集まりました。

私は、大学を卒業して四月に速谷神社に奉職したばかりで、当初は参加しても良いものかと迷いました。しかし、講話はもちろんのこと、大勢の人の前で話をした経験もほとんどない私にとって、これから講話を勉強していく上で良いきっかけになればと思い参加することにしました。

研修会当日まで、講話内容を考え、何度も何度も書き直しをして準備を進めるうちに、先輩神職はどんな講話をされるのか、参加者の話術を学びたいと強く思うようになりました。それでも会場に行つてみると、私が受講者の中で唯一の平成生まれであることを知り、緊張で押しつぶされそうになりました。聞く相手の懐に入り込むようなども上手な講話だったと感心しました。

開講式を終え、まず中国地区教化講師の錦田剛志先生の講義、さらにモデル講話の実演がありました。錦田先生は表情豊かで、随所にジョークの混じった話は面白く、あつという間に時間が過ぎていきました。聞く相手の懐に入り込むようなども上手な講話だったと感心しました。

モデル講話を通して、聞き手の反応を確かめながら「笑い」を入れること、大事なことは何度も繰り返し伝えること、そして内容にメリハリをつけることで聞き手の立場に立った心に響く講話となるのだと学びました。

錦田先生のモデル講話の後、一日間に分けて、九名の発表者による

実演がありました。私の発表は一日目でしたので、皆様の講話を自身の発表に活かせないかと思ひながら、拝聴しておりました。しかし、講話も人数を重ねるにつれて徐々に発表のハードルが上がつていくように感じて焦りました。そして、私は緊張MAXの状態で自身の発表の順番を迎えました。

演題は『地鎮祭のあと』。平静を装いながら勢いだけで発表を乗り越えました。そんな私の講話は、案の定、ユーモアの無いお堅いものでした。皆様からは、話し方やジェスチャーが良いとお褒めいただきましたが、ユーモアの部分があると聞き手も飽きない講話になると、いつたアドバイスもいただきました。

実際に講話した感想は、緊張や不安で決して練習通りにはいかないというものがでました。しかし錦田先生からは、「失敗は成功のもとで、伝え方、話術の向上は経験あるのみ」というお言葉をいただき、先輩神職方の安心感のある講話も、これまでの努力と経験の積み重ねの賜物なのだと実感いたしました。

とても学ぶことが多い研修会でした。私もこれから社頭での経験を重ね、聞く相手の立場に立ち、説得力のある講話ができるようになりたいと胸に強く刻むことができました。ありがとうございました。



佐伯大竹支部 速谷神社 出仕 日下康平

社頭講話研修会に参加して



第五ブロック研修会が六月二十日世羅郡世羅町の大田庄歴史館で行われた。神職二十名の参加で遠方から初めての参加の方もあり交流も深める事が出来た。

ちょうど今年は今高野山開基千二百年にあたり、講師を地元出身で大学では史学や考古学を研究され世羅町教育委員会勤務で文化財保護委員会事務局もされる学芸員の林光輝先生により行つた。開講式での林幸和支部長の挨拶では祭りの音を消してはならない、コロナ禍でもできる事は少しでも多くやっていきたいと思いを述べられた。講義は窓を開けてのクールビズで行い、世羅の地名の由来や成り立ちに始まり弘法大師と今高野山の歴史や空海伝説、若き日の今上陛下が四一年前に世羅郡へお成りになつた足跡をプロジェクトで資料を映しながらわかりやすく学んだ。

続いて展示室に移動して「せらの仏教美術展」などの展示物の説明を受けた、その中には神社からの展示物も多くあり狛犬等の興味深い展示物が満載である。

また会場を移動して実際に今高野山を散策しながら石垣や建物の説明を受けた。坂道も多く参加された方は大変だつたとは思つたが、最後に次回開催支部長の巻幡俊宮司から挨拶を頂き有意義な半日研修会を終える事が出来た。

「第五ブロック研修会」

世羅支部

第五ブロック研修会が六月二十日世羅郡世羅町の大田庄歴史館で行われた。

神職二十名の参加で遠方から初めての参加の方もあり交流も深める事が出来た。

ちょうど今年は今高野山開基千二百年にあたり、講師を地元出身で大学では史学や考古学を研究され世羅町教育委員会勤務で文化財保護委員会事務局もされる学芸員の林光輝先生により行つた。開講式での林幸和支部長の挨拶では祭りの音を消してはならない、コロナ禍でもできる事は少しでも多くやっていきたいと思いを述べられた。講義は窓を開けてのクールビズで行い、世羅の地名の由来や成り立ちに始まり弘法大師と今高野山の歴史や空海伝説、若き日の今上陛下が四一年前に世羅郡へお成りになつた足跡をプロジェクトで資料を映しながらわかりやすく学んだ。

続いて展示室に移動して「せらの仏教美術展」などの展示物の説明を受けた、その中には神社からの展示物も多くあり狛犬等の興味深い展示物が満載である。

また会場を移動して実際に今高野山を散策しながら石垣や建物の説明を受けた。坂道も多く参加された方は大変だつたとは思つたが、最後に次回開催支部長の巻幡俊宮司から挨拶を頂き有意義な半日研修会を終える事が出来た。

(竹廣浩一 通信員)

(横田光則 通信員)



編集後記

残暑お見舞い申し上げます。秋祭りの時期が近づいてきましたが、今年は感染対策をとりコロナ禍前と同様の神賑行事を実施する神社も多いのではないでしょうか。現在我々の前に多くの困難が立ちはだかり厳しい状況が続いておりますが、総代・神職皆で力を合わせ一つ一つ確実に祭典を斎行することが、氏子崇敬者の方々の笑顔に繋がるのかもしれません。庁報の発行に際し多くのご協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。

庁報編集委員一同

福山支部 「茅の輪くぐりの神事に思うこと」

府中芦品支部 「初めての茅の輪くぐり」

三原支部 「夏越大祓え祭」

塩崎神社（神原勇氣宮司）の「夏越の大祓」に合わせて、茅の輪くぐりが行われました。毎年地域のお祭り当番組さんによって、河原で刈り取った茅を使って作られます。暑い中、十数名の当番組総代さんらが集まり、大きな茅の輪が境内に設置されました。青々しい茅の香りが境内一杯に広がり、今年も無事に大祓のお祭りの準備が整つたのだと、毎年安堵致します。

地域の皆様をお守りしてこられた塩崎神社では、「茅の輪くぐりの神事」に多くの方が参られます。半年間の穢れ（気枯れ）を祓い清め、暑い夏を乗り切り、皆さまが残り半年を息災で過ごせますよう祈念いたしました。

私たちは、新型コロナウイルス感染症、ウクライナ戦争など、未曾有の出来事を体験しています。不安な気持ちで日々をお過ごしになられ、世界、日本、地域の安寧と家族の無事を皆が願つておられるのだなという思いが、祈祷の際にひしひしと伝わってきました。皆様には、静かにお心持で日々を過ごしていただけるよう「祈る」とこの大切さをこれからもお守りしたいと思いました。



材料の茅は、府中市諸毛町の畠で神職・総代ら約二〇人が刈り取り、本殿正面に太さ約一〇cm・直径約一mの「茅の輪」を設置した。神事は、約五〇人の参拝者が皿海宮司に合わせて『大祓詞』を奏上、その後宮司祝詞奏上の後、全員で「茅の輪くぐり」をおこなつた。「茅の輪くぐり」の間中、渡辺直樹清々しい音色が夕刻の八尾山に響き渡つた。今後も地域一体となり、この神事が継続できるよう頑張りたいと皿海宮司は目を輝かせていた。



去る六月三十日、三原市糸崎に鎮座する府中八幡神社（皿海宏則宮司・宮口英昭総代長）では、備後地方の先陣を切つて六月二十五日夕刻「夏越の大祓式」いわゆる「茅の輪くぐり神事」が斎行された。備後地方は、「備後国風土記」逸文によると「蘇民将来伝説」に基づく「茅の輪神事」の発祥の地として素盞鳴神社（福山市新市町）をはじめとして多くの神社で行われているが、府中八幡神社では、このたび皿海宮司の発案により初めて行われた。

神事は、約五〇人の参拝者が皿海宮司に合わせて『大祓詞』を奏上、その後宮司祝詞奏上の後、全員で「茅の輪くぐり」をおこなつた。「茅の輪くぐり」の間中、渡辺直樹清々しい音色が夕刻の八尾山に響き渡つた。今後も地域一体となり、この神事が継続できるよう頑張りたいと皿海宮司は目を輝かせていた。

また境内には午後九時頃まで昇殿輪くぐりを待つ人、境内の茅の輪をくぐる人が多く見られた。十時頃、宮司・神役が人形を海に流し、大縄を海辺で焼納し全てが終了した。以前は茅の輪・大縄・人形を海に流していたが現在は海上交通への支障を考慮されこの様な形となつている。



当日は午後五時半より祭典を斎行。修祓、宮司一拝、献饌、祝詞奏上、玉串拝礼では、備後地方の先陣を切つて六月二十五日夕刻「夏越の大祓式」いわゆる「茅の輪くぐり神事」が斎行された。

神事は、約五〇人の参拝者が参列者二十数名を代表して拝礼した。大祓詞奏上、撤饌、宮司一拝にて祭典を納めた。引き続き、輪くぐりが行われ、拝殿床に設置された茅の大縄（延べ二十四メートル）の輪の中に参列者五名ずつ入り、人形を供えて祓いを受けた後、二拝二拍手一拝し、二人の神役が「水無月の夏越の祓えする人は千歳の命を延ぶといふなり」と唱えながら大縄を大きくパタンパタンと三回廻して坐し乍ら祓いを受けた。拝殿入り口で茅の輪守りを授与された。

また境内には午後九時頃まで昇殿輪くぐりを待つ人、境内の茅の輪をくぐる人が多く見られた。十時頃、宮司・神役が人形を海に流し、大縄を海辺で焼納し全てが終了した。以前は茅の輪・大縄・人形を海に流していたが現在は海上交通への支障を考慮されこの様な形となつている。

吳支部 「地域の小学校の総合学習」

吳支部

呉市警固屋鎮座の宇佐神社（横田光則宮司）では総代会や自治会連合会が中心になつて地域の小学校の総合的な学習に関わっている。

六月十六日、宇佐神社に警固屋小学校の一年生と四年生が総合的な学習（地域を愛し、地域の未来を創り出す学習）をするために三十五人訪れた。宇佐神社の歴史、地域と神社がどのように関わってきたのかを学習した。また、秋祭りに現れる独特の鬼「やぶ」も登場し子どもたちは目に見えた。その後子どもたちに実技指導をした。

わる祭りの文化を子どもに継承するため、実際に祭りの文化が一層わかりやすく響いたものと思われる。



11 (No.148)

世羅支部 「今高野山開基千二百年」



世羅郡世羅町甲山にある県史跡の今高野山が、今年は開基千二百年にあたり町を挙げてお祝いムードに沸いている。年間を通じて記念イベントを企画し飲食店では記念メニューを提供するなどしている。

その幕開けとして四月三日に今高野山の丹生神社の境内で約五百人が集まって「弘法花まつり」が開催され、林幸和宮司による祭典が行われた。続いて地元自民党衆議院議員なども参列しテープカットを行い奥田正和町長の挨拶があった、神楽殿では「清めの舞」が始ま

り地元太鼓団等の演奏や、世羅町津口神楽会による神楽の侍と供の三吉との掛け合いに観衆の笑いが沸き上がり、大蛇

の暴れるシーンでは世羅狂言太鼓の演奏も加わり賑やかさも最高潮。浴衣姿の腰にチューリップを挿した団体が「せらまち音頭」を踊り観客も一緒にになって大いに盛り上がった。

また、三百年余りの歴史がある胡神社の夏祭り「甲山廿日（はつか）えびす」では、だんじりのにわか狂言芝居や打ち上げ花火が行われるが、今高野山の歴史にまつわる演出も企画される。

（竹廣浩一 通信員）

三次支部 「風鈴まつり」



厳しい暑さの中、涼しげな風鈴の音色で参拝の皆さまに涼を取つてもらっているのは、三次市十日市に鎮座する鷺神社（圓藤久幸宮司）です。「風鈴まつり」と銘打つて、六月一日から八月三十一日まで境内に風鈴が約五〇〇個が飾られており、参拝の皆さまに涼しげできれいな音色を響かせています。この「風鈴まつり」は鷺神社禰宜の圓藤竜久さんと奥様で

えれば、昨年より新たな試みとして始められました。禰宜の恵さんは「五〇〇個の風鈴が展示されているので、ぜひ音色を聴きにご参拝ください。」と話された。また今回の「風鈴まつり」について、新聞やテレビでの告知もされており、地元での関心も高まっているのだ

はないかと感じます。

三次支部は過疎地域ということで、今後も新たな試みで神社への関心を高めて神社の護持運営と教化に繋がつていければと思います。

（小島直樹 通信員）

